

平成27年度 佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制) 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b> 歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)	<b>2 本年度の重点目標</b> 生徒一人ひとりの進路実現のために、全職員が共通認識に基づき統一した指導を行うとともに、将来心豊かに生き、自らを高めながら社会に貢献してゆく力を育てる。
--	--

達成度 A : ほぼ達成できた B : 概ね達成できた C : やや不十分である
---

**3 目標・評価**

**① 学力の向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・普通教科における基礎的な学力の育成	・生徒の学力を常に把握しながら、特に基礎的な学力の向上を図る。	・生徒の現段階での学力を把握するとともに、学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れる。	B	生徒の実態に応じた学力の向上に努めることができた。	生徒間の学力差に応じた学習指導を工夫して、理解を進める。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・授業における電子黒板の活用 ・授業における学習用PCの活用	・電子黒板で映像や図式等を表示することにより、授業内容の理解力向上を目指す。 ・学習用PCを積極的に活用し、見識と社会的視野を広げるとともに、積極的に授業参加する態度を育てる。	・学習用PC及び電子黒板を用いたデジタル教材活用法について研修会を行う。 ・デジタル教材(自主教材)の開発及び収集を行い、それらを効率的に利用できる環境を整えることで教材の充実を図る。 ・インターネットを使った情報収集の機会を増やす。	B	電子黒板を利用することによって、画像や動画を見えることによって、理解を助けたり、興味を持たせたりするのに役立った。	デジタル教材を活用することにより、生徒の理解、関心を高めて行くような工夫、関心方法を考えていくことが必要である。

**② ものづくりと資格取得の推進**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ものづくりと資格取得の推進	・資格取得推進と各種大会参加	・難関資格へのチャレンジと受験者全員の合格を目指す。	・資格取得に対する意識を高める指導を行う。 ・難関資格チャレンジに対して補習などを行い、できるだけ多くの資格取得を目指す。 ・工業技術大会等への積極的な参加を促す。	B	今年度、科を超えて、資格取得を目指す生徒が増えてきたが、受験数が若干減少傾向にある。	進路指導と絡めながら資格取得の有益さを生徒に指導し、生徒の受験意欲の向上を図る。

**③ 進路指導の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・指導体制の確立と希望する進路の達成	・コミュニケーション能力(特に挨拶する力、自分の考えを発表できる力)の向上を図る。  ・一般常識力を高める。 ・在校生の就業率を80%以上にする。 ・卒業時の進路決定率80%以上を達成する。 ・入学時から系統立てた進路指導を充実する。  ・ハローワーク等との連携を図り進路決定に寄与する。 ・基本戦略理念である3つの「共(とも)」に基づく「自己マネジメント」の一環として、社会人基礎力(特に、エンプロイアビリティ)の向上を図る。 ・「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」の徹底を図る。 ・他者と関わりながら賢くなり、成長し、混沌とする時代に「変化対応」できる人材の育成を図る。	・積極的に挨拶ができるように指導し、授業中に発表する時間を取り入れ、自分の考えを発表できる力をつける指導を行う。 ・授業に一般常識学習を取り入れ、身につく指導を行う。 ・就業を継続することの重要性を意図させ、さらに就業先で辛抱する力をつける指導を行う。 ・生徒が希望する企業へ、定時制生徒の受け入れを依頼し、企業の開拓を図る。 ・ハローワーク等の講師を積極的に活用した進路ガイダンスを行う。 ・ポートフォリオを取り入れ進路意識を高める指導を行う。 ・充実したライフキャリアの構築を見据えた「持ち運び資格」の意識を育成する。 ・「遅刻・欠席・早退」について、担任への連絡を徹底させ、社会人としての規範を指導する。 ・「変化対応」できる人材を育成するため、「アクティブラーニング」を取り入れたキャリア教育を推進する。	B	・在校生の就業率80%及び卒業生の進路決定率75%となり、目標値をほぼ達成した。 ・資格取得への意識は高いが、基礎的な学習能力を希望する生徒が、更に増加する想定できるため、一般常識力の強化が必要である。 ・職種及び労働条件等を的確に判断できるように指導した結果、安易に妥協せず、保護者との充分なる話し合いに基づいて、希望する企業を選定するようになった。	・ポートフォリオ活用の再考を含め、日常生活面においても、コーチング・マネジメントを取り入れた細やかな個別指導が必要である。 ・全日制生徒と同じ企業を希望する生徒が、更に増加する想定できるため、一般常識力の強化が必要である。 ・他者との関わりながら賢くなり、成長し、混沌とする時代に「変化対応」できる人材を育成するために、「アクティブラーニング」を取り入れたキャリア教育への進展が必要である。

**④ 生徒指導の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立及び素直な態度の育成	・気持ちよい挨拶ができ、遅刻・欠席をしないなど社会人として必要な素養を身に付ける。	・登下校時の挨拶指導に取り組む。(毎日の登校指導) ・清潔な身なり、実習室や教室での5S(整理・整頓・清掃・清掃・狭)運動を指導する。 ・茶髪・ピアス・特異な髪型等の指導および、入室や言葉使用などのマナー指導を全職員で徹底する。 ・自動車・原付バイクの安全運転指導、定期的な交通用具の点検指導を行う。	B	・登下校時の挨拶指導を行い、多くの生徒が元気に挨拶を返してくれた。 ・学校側の指導に対して多くの生徒が理解を示し、マナーを守った行動ができた。	・入学のときから、定時制高校に通学する意義や将来の進路等を考えさせ、目標を持って日々努力・成長することを自覚させる必要がある。
教育活動	●心の教育	・豊かな人間性の育成	・道徳教育を推進し、命を大切にすることを育成する。 ・自分に誇りを持ち、友人を尊重する学校生活を送れるようにする。	・道徳の年間計画を作成し、健康安全、心の教育、交通講話、消費者教育等の講演会、講話を充実する。 ・校内で生徒同士が自分の生活体験を発表したり聴いたりすることを通して、他者理解を深める。	B	・講話やDVD視聴等の情操教育を実施し、他者のことを尊重する態度が身につけてきた。	・今後も継続して豊かな人間性の育成する教育を推進していく。
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめのない健やかで穏やかな学校生活を営むことが出来る環境と体制づくり	・未然防止「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進。 ・いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する。	・学期毎のアンケート調査ならびに担任による面談を実施する。 ・生徒会と連携した啓発活動に取り組む。 ・生徒が相談しやすい環境づくりを行う。 ・全職員による認知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・問題発生時に「いじめ体罰等対策委員会」の実施と関係機関との連携強化を図る。	B	・いじめの認知、認知の基準が見直され、2件の認知がなされた。 ・生徒と教師の距離を縮め、生徒の悩み事等の相談にのり、良好な関係づくりを行った。	・今後も、積極的に声かけを行い、生徒と教師の交流を深め、相談しやすい環境づくりを行う。

**⑤ 健康・体づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・給食指導の推進 ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成  ・スポーツ大会の実施	・生徒の給食喫食率7割以上を目指す。 ・給食指導を通して望ましい食習慣の定着を目指す。 ・食中毒を防ぐための日常的な衛生管理を徹底する。 ・生徒会主催のスポーツ行事を充実する。	・給食前に各教室を巡回し、給食室への移動を促し、喫食できるような環境を構築する。 ・集会等で食育及び食中毒や手洗い指導等に関する教育を行う。  ・年2回のクラスマッチの他に生徒会主催のスポーツ行事を実施し、生徒間の交流を図るとともに学校への帰属意識の育成を図る。	B	・インフルエンザが3名出たが、食中毒予防のための指導はしっかりできた。喫食率は、目標の割を超えた。 ・タグラグビーとボウリング大会を開催し、大変な盛り上がりを見た。生徒間や教員との交流を深めることができ、学校への帰属意識が高まった。	・感染症・食中毒が出ないように指導を継続する。  ・様々なスポーツ大会を開催することができるよう、用具等の充実を図ってきたい。

**⑥ 人権・同和教育の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	生活全般にわたる人権教育の立場からの職員研修の充実 校内からあらゆる差別や人権侵害をなくす取り組みの実践	・生活の各方面にわたる人権教育の立場から、人権・同和教育についてのLHRを全学年全クラスで実施する。 ・ホームルーム等で差別や人権侵害をなくすための指導を行う。 ・職員の人権・同和教育の意識を更に向上する。	・公的機関の提供する啓発動画などの具体的事例をもとに全生徒対象の研修会及びLHRの充実を図る。 ・人間関係をスムーズにするための言葉づかいを指導する。  ・年度に1回以上職員研修会を実施するとともに、年度に1回以上、各種研修会へ参加する。	B	・年間計画に基づいて指導や職員研修などを行うことができた。 ・特に危惧する問題事案はなかった。 ・人権教育を良好な交友関係に結びつけて行った。	・基本的な学習態度や人と接するときのマナー意識を、日常の学校生活の中で指導の中にしていく。

**⑦ 特定課題**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
特定課題	○プロジェクト「SAKO V」2015の推進	生徒一人ひとりの進路実現	・職員の共通認識に基づいた統一した指導を行う。	・各校務分掌、学年団、各科が連携し、下記の4目標実現のための具体的な指導方策を工夫・設定し、実践する。 ①コミュニケーション能力の向上 ②キャリア教育の充実 ③基礎学力の向上 ④豊かな人格の形成	B	「SAKO V」2015の4本柱の推進を全職員が共通認識し、生徒一人ひとりの進路実現を組織として取り組み、生徒の意識を向上させた。	生徒の受け止め方にまだばらつきがあり、全生徒が四つの柱を意識し、今の生活を改善する意識を持たせる方策を検討したい。
教育活動	○地域とのかかわり	・地域でのボランティア活動	・地域の清掃活動に取り組む。	・地域でのボランティア活動を計画し、清掃活動等に取り組む。	B	・奉仕作業を体験させることで、共生の心を育み、ボランティアへの意識を根付かせることができた。	・定時制での奉仕作業は、日没との戦い、日中に実施できないか検討している。
教育活動	○教育相談	・組織的な教育相談体制の整備	・悩みを抱えている生徒に対してきめ細かく対応する。	・担任・副担任等と教育相談担当やスクールカウンセラーの連携を密にし、職員が共通理解を図りながら指導・相談に当たる。	B	担任・副担任にスクールカウンセラーの来校日を連絡するなどして、スクールカウンセリングなどをおこない、悩みを抱える生徒へのある程度対応はできた。	定時制の生徒は、深刻な悩みを抱えている生徒も多いので、担任・副担任等を連携して指導・相談に当たりたい。
学校経営	○接遇・対応(事務室)	・事務室窓口に来られる来客者・保護者等に対する窓口対応 ・事務室職員の電話対応	・窓口に来られる来客者・保護者に親切かつ丁寧に対応する。 ・電話対応を迅速・丁寧・親切に行う。	・来客者には学校に対する不快感・不信感を与えないよう臨機応変に対応する。 ・電話対応は、内容等を明確に理解し、電話をかけられた方が不快感を感じることがないように迅速丁寧に対応する。また、苦情の電話等には特に真摯な態度で接し、内容等をすぐに各主任・教頭に連絡し、迅速な対応に努める。	B	・窓口及び電話対応については、事務室全体で話し合い取り組んだので良い対応ができた。外部からの電話に対して迅速かつ的確に対応することができた。苦情等はなかった。	保護者から文章の内容についての問い合わせがあった。申請書や配布文章を簡潔で分かりやすく来年度も改善していきたい。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 学校評価アンケートでは、「いじめ防止の取り組み」「キャリア教育の推進」「資格取得の奨励」「部活動の奨励」という学校の取り組みが、生徒及び保護者からここ数年継続して高い評価を受けており、その結果として、「佐賀工業高校に入学して(させて)よかった(生徒91.0%、保護者96.4%)」という思いにつながっていると考えられる。一方で、学習面での取り組みや身だしなみや生活の決まりごとを守っているか等については評価が伸びておらず、「基礎学力の定着」「基本的な生活態度の改善」については重要課題として更に取り組んでいかなくてはならない。また、学校は資格取得に向けての指導体制ができているとほとんどの生徒保護者が答えているにもかかわらず、資格取得に積極的に取り組んでいると答えた生徒・保護者は約半数であった。資格取得については積極的に挑戦する生徒とそうでない生徒の二極化が見受けられ、生徒の進路実現のためにこれからは資格取得を奨励していく必要がある。  
 いろいろな課題に対する学校の取り組みとしては、「チーム学校」と呼ばれるような組織的な対応が重要であるが、この組織的な対応については、来年度更に充実を図る必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目